

# 紙ふうせん

KAMIFUSEN NO.47

成田市立図書館だより 第47号 2001年(平成13年)1月20日発行

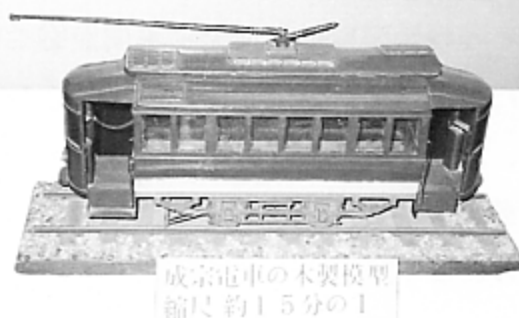
編集 成田市立図書館 〒286-0017 成田市赤坂1-1-3

☎ 0476-27-4646  
FAX 0476-27-4641

## 2000年 図書館講座開催!



図書館2F展示コーナーにおいて  
市史講座「思い出のチンチン(成宗)電車」の特  
集を行いました。



成宗電車の木製模型  
縮尺約1.5分の1

市史講座  
「思い出の  
チンチン(成宗)電車」

白土 貞夫 氏



今年の市史講座は、市史研究24号に掲載された“成宗電車”についての講演でした。講師は、同号に執筆していた白土貞夫先生にお願いしました。白土先生は成田市の市史編さん委員会の近現代専門委員としても活躍された方です。

この成宗電車は、明治43年に開通し昭和19年に廃止されるまで約35年間、成田の町なかを走った千葉県で最初の電車です。今でもその旧路線に「電車道」という愛称がつけられていることからわかるように、市民の成宗電車への愛着は強いものがあります。白土先生も小学生のときに母親に連れられて成田山に参拝した折、片道だけこの電車に乗られたことがあるそうです。

明治30年に成田鉄道が開通し、また同34年には上野から我孫子経由で成田まで鉄道が開通したので成田山への参拝客がどっと増えました。「成田の町なかに鉄道を敷く」という計画が発表されたときは、町中の人たちや人力車夫が商売にならないと大反対したそうです。賛成派と反対派が対立し、成田の町中が不穏な空気に包まれる有り様でした。路線を一部変更してようやく開通することができましたが、それは経営者も大株主も東京在住の人たちだったからだといいます。開通後も町中の人たちは相変わらず反対し続けました。

電車の動力に必要な電気を作るために東町に火力発電所が設置され、電車の開通と同時に成田の町中に電気が供給されました。これは県内では千葉市に次いで二番目だそうです。電車事業の利益より電気事業の利益の方が多かったといいます。

成宗電車は経営母体が変わったりして変遷を遂げ、昭和19年12月11日太平洋戦争が激化するなか観光用の色彩の濃い電車だということで政府の命令で廃止され、その使命を終えました。

質疑応答の時間には、活発に質問が寄せられ参加者の関心の高さがわかりました。聴講された方たちは一層“成宗電車”についての思い出を深められたことでしょう。

なお、白土先生の主な著書には『成田市史・近現代編』『水郷汽船史』『民鉄経営の歴史と文化 東日本編』『千葉鉄道管理局史』『ちばの鉄道一世紀』などがあり、今も精力的に執筆しておられます。



一般講座

# 「わたしが恐竜博士になった理由」

福田 芳生 氏

「恐竜博士」こと福田<sup>よしお</sup>芳生先生は昭和16年千葉県生まれ。現在、千葉県衛生研究所に主席研究員として勤務されています。

その著書に掲載されている数多くのリアルな恐竜や化石のイラストは、福田先生ご自身が描いたものです。幼い頃から、ものの精密な絵を描くことが得意だったそうで、今でもノートなどにさらさらと恐竜の絵を描くことができます。

このような面を見ると、何でもそつなくこなす器用な人を想像するのですが、実は違うようです。福田先生は幼かった頃を振り返り「自分は決して天才児だったのではなく、むしろ勉強のできないいじめられっ子だったのだ」と言います。

いじめにあい、すべての希望を失っていた福田少年を救ったのは、兄から手渡された『地球の歴史』という一冊の本でした。「いじめも戦争もない恐竜たちの時代」は、たちまち福田少年の心を取りこにしました。そして福田少年は「いつかきっと古生物学者になろう」と決心したのです。そのことがいじめや孤独を克服するきっかけとなり、福田少年を世界的にも著名な論文を発表し続ける「恐竜博士」へと変えていったのです。福田先生は今でもその本を大切にしています。

「そんな自分が今ここにいるのだから」と福田先生は、子どもたちに夢をもつことの大切さを伝えます。そして大人たちには、子どもたちの夢を支えてやってほしいと訴えます。

夢を抱くこと、それに向かって努力することは自分を信じることでもあります。自分の夢をしっかりと見つめる子どもたちは、何ものにも負けない強さを心の中に持つに違いありません。子どもを取り巻く悲しいニュースが増える中、たいへん勇気づけられる講演でした。

当日は電子顕微鏡で見た恐竜の骨細胞の写真や恐竜の下<sup>あご</sup>顎の化石など、貴重な資料も見せていただくことができました。また、福田先生のご好意で講演会の参加者に著書のプレゼントもありました。質問コーナーでは子どもたちから恐竜の生態に関する質問も相次ぎ、予定の時間をオーバーしても質問が終わらないほどでした。

福田先生によりますと、成田市内でも化石の出る場所はたくさんあるそうです。皆さんも恐竜博士を目指してみませんか？

児童講座

# 楽しかったね、 科学あそび

坂口美佳子 氏 (科学読物研究会)

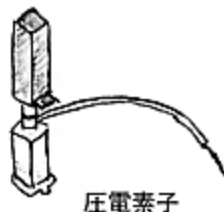


すっかりおなじみになった科学あそび講座。今年は「こども読書年」にちなんで2回行い、たくさんの子どもたちが参加してくれました。

## 第1回 8月1日 (火)

### 「ぼくもわたしも雷様—圧電素子であそぼう」

「圧電素子」って何だか知っていますか？電気を作ることができる部品なのですが、あまりなじみのない言葉ですね。身近にあるものでは、ガスコンロや100円ライターの点火装置として使われています。講座では圧電素子を使って電気を通す実験をしました。(流れる電流はほんの少しなので危険はありません。) 圧巻だったのは“百人おびえ”という実験です。先生と50人の参加者が手をつないで輪になってから、先生が圧電素子のスイッチを押すと、なんと静電気のような衝撃が全員を駆けめぐり、会場は大騒ぎ。人間のからだに電気を通すということを、まさに身を持って体験することができました。



圧電素子

## 第2回 8月24日 (木)

### 「音であそぼう—エコーのかかるバネ電話づくり」

音を出している物は振動しています。その振動が空気を振動させて伝わり、音として私たちの耳の中へ届くのです。このことを糸や笛などのいろいろな

物で音を出して確かめてみました。ダンボールの中に入るとどう音が伝わるか、真空状態では聞こえるのかなど、興味深い実験も行いました。次に、ペットボトルと金属バネを使って電話を作りました。できあがったバネ電話で話をすると、糸電話とは違って声が大きく反響します。これは、音を伝えるバネが糸よりも長い間振動しているためです。会場のあちこちで、マイクで歌った時のようなエコーが響きわたり、とて



バネ電話

にぎやかでした。

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

どちらの講座でも、実験の前には必ず子どもたちに実験結果の予想をしてもらいました。これを「仮説をたてる」と言います。これを行うことで、より主体的に実験に参加でき、理解も深まると先生はおっしゃっていました。自分の予想を発表したり、実際に実験をしている時の子どもたちは、とても生き生きしていました。なお、図書館では、科学あそびに関する本をたくさん備えています。ぜひご家庭でも楽しい実験を試してみてください。

## 編集後記

長期にわたる工事でご迷惑をおかけしておりますが、2001年、図書館は生まれ変わります。

新しい知識やテクノロジーと、昔ながらの知恵と文化。図書館ではその両方があなたとの出会いを待っています。

これからも図書館はあなたと本の出会いをお手伝いします。

成田市立図書館だより

発行 成田市

編集 成田市立図書館

〒286-0017 成田市赤坂1-1-3

☎0476-27-4646

発行日 2001.1.20

登録番号 成教図356